



医療連携だより[アシスト]

ASSIST

2023.3
No.57

帝京大学医学部附属病院

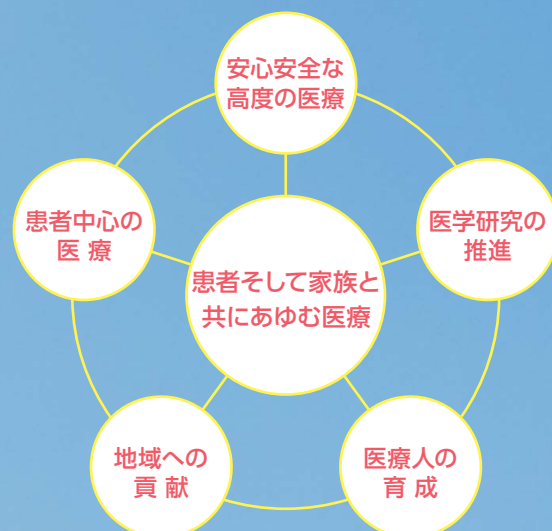
contents

脳神経外科に到来した“低侵襲化”の波 — 脳腫瘍に対する神経内視鏡手術

帝京大学医学部附属病院 脳神経外科 主任教授 下垂体・内視鏡手術センター長 辛 正廣

地域に頼られる総合周産期母子医療センターを目指して

帝京大学医学部附属病院 産婦人科 主任教授 長阪 一憲



脳神経外科に到来した、低侵襲化の波——脳腫瘍に対する神経内視鏡手術

帝京大学医学部附属病院 脳神経外科 主任教授 下垂体・内視鏡手術センター長 辛 正廣

平素より帝京大学医学部附属病院 脳神経外科の病診連携にご協力いただき、感謝いたします。当科では、患者さんの体の負担を最小限に抑えつつ、最大限の治療効果を発揮する「低侵襲脳神経外科手術」の実現を目標に、日々、努力を重ねています。今回は、今、脳神経外科領域で起こりつつある、新たな変革について、ご紹介したいと思います。

近年、脳神経外科領域では、低侵襲化というキーワードが注目を集めています。脳卒中の分野では、カテーテルを使った血管内治療の進歩があります。従来は有効な治療法がなかった急性期脳梗塞や、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤について、開頭（頭皮を切開し、頭蓋骨を開いて行う手術手技）を必要とせず、安全に治療ができるようになりました。血管内治療は、血管という、もともと人間の体に備わった解剖学的な空間を利用して脳深部の病変に到達するため、脳自体に触れることなく、安全かつより効果的に治療が可能となったわけです。

こうした、低侵襲化の波は、脳腫瘍の手術にも及んでおり、内視鏡を駆使することで、体の中から手術を行う技術が開発されています。かつては治療困難とされていたり、治療には患者さんに大きな体の負担を強いる必要があったりした、様々な脳腫瘍について、安全に治療できるようになっています。

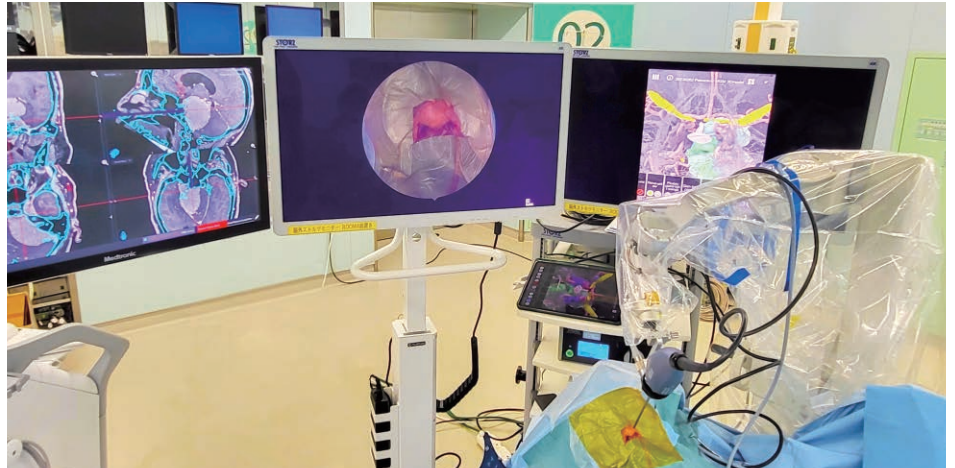
脳神経外科領域では、以前から、顕微鏡を使用し、頭蓋骨の外から病変部を観察して手術が行われております。これは、脳深部にある術野を拡大して外から視認しながら行われるため、手術に伴い、脳の限られた隙間を利用したり、脳を牽引して隙間を広げたりして術野を確保する必要があります。脳腫瘍の中でも、頭蓋底から発生する髄膜腫や下垂体腺腫、神経鞘腫など、頭蓋底腫瘍の手術では、この「隙間」よりも病変の方が圧倒的に大きく、顕微鏡下で限られた視野での手術では、多くの問題を有しています。

神経内視鏡の導入は、こうした術野の視認性に関する問題を一気に解



帝京大学医学部附属病院
脳神経外科のスタッフ

Neurosurgery



最先端の神経内視鏡手術システム
(4K-ICG内視鏡と当科で開発した
3D画像搭載手術用ナビゲーション)

決しました。人間の頭部には、鼻腔をはじめ、蝶形骨洞や副鼻腔、乳突蜂巣といった外から見えない空洞が複数存在します。また、脳の中にも脳槽や脳室といった髄液で満たされた大きな空間が存在しています。内視鏡下で行う手術では、こうした本来備わっている空洞を経由して、脳深部の病変に安全に到達することができます。小さな入り口からでも、広い視野のもとでの手術が可能です。腫瘍も周辺の解剖構造も、すべてしっかりと確認できるので、手技自体が容易となり、手術時間の短縮と成績の向上が、同時に達成されています。また、手術に際し、頭皮の切開を全く必要としないか、必要な場合でも小さな切開で済むため、美容的にも優れており、患者さんの早期社会復帰をさらに後押しする結果となっています。

当科では、こうした低侵襲治療に早期より着目し、患者さんの一日も早い社会復帰の実現を目指して、日々、努力しています。現在、脳血管内治療の専門医が5名（内、2名は指導医）、脳卒中外科手術の認定医が2名、神経内視鏡手術の技術認定医が3名、在籍しています。脳卒中診療については、血管内治療や内視鏡下での脳出血の治療が、24時間365日行うことのできる体制を構



脳神経外科病棟からの景色

西側の窓からは富士山が大きく、はっきりと見え、東側の窓からは、遠くに筑波山が一望できる。

築しています。また、脳腫瘍についても、一般には手術が難しいとされる頭蓋底腫瘍から、神経膠腫やリンパ腫などの悪性脳腫瘍まで、あらゆる病態に対応可能です。

当科には、幅広い治療の経験と多くの手術経験のある脳神経外科医、最新の治療器械、さらに、病気を熟知したスタッフと明るく開放的な病棟のすべてがそろっています。脳の病気で困りの方がいらっしゃいましたら、いつでも遠慮なく、ご相談いただければ幸いです。



帝京大学医学部附属病院 脳神経外科 主任教授 下垂体・内視鏡手術センター長

辛 正廣 (しん まさひろ)

1994年 東京大学医学部卒業
東京警察病院、亀田総合病院、
東京都立神経病院等に勤務
1998年 東京大学医学部附属病院 脳神経外科 助教
2003年 フランス パリ大学病院に臨床医として留学
2004年 フランス原子力研究所 研究員
2008年 東京大学医学部附属病院 脳神経外科 講師
2021年 帝京大学医学部附属病院 脳神経外科 主任教授

【専門分野】

- ・下垂体腫瘍や頭蓋底腫瘍の内視鏡手術
- ・顕微鏡と内視鏡を駆使した脳腫瘍の手術
- ・AIやコンピュータグラフィックス画像を駆使した手術シミュレーションに関する研究

地域に頼られる総合周産期母子医療センターを目指して

帝京大学医学部附属病院 産婦人科 主任教授 長阪 一憲

帝京大学医学部附属病院（以下、当院）は、1998年4月に総合周産期母子医療センターとして認定を受けています（都内で2番目）。周産期領域での救急・重症管理、治療に対応できる施設として、24時間体制で地域の受け入れ体制を確保し、高度な医療を行うことが、私たちの使命です。

当院は、東京都が定める区西北部ブロック（板橋区、北区、豊島区、練馬区）にあります。区東北部ブロック（荒川区、足立区、葛飾区）の搬送先調整担当としても配置されています。これら広い地域での母体救命救急対応、ハイリスク妊娠に対する医療、高度な新生児医療を担う義務があります。

近年、少子高齢社会が進み、さまざまなハイリスク妊娠・分娩に対する安全な管理が求められます。一方で、働きながら安心して妊娠・出産を迎えられるよう妊婦健診の利便性や快適性を保ちつつ、早期の職場復帰を求めるニーズも高まっています。

そこで当院では、「セミオーブンシステム」を導入いたします。セミオー

ブンシステムとは、地域の連携病院（クリニックや診療所）と連携し、妊婦健診は自宅や職場近くの通いやすい連携病院で、分娩は当院で、といった形を提供することで、妊婦さんが安心して出産できるようにするものです。

また2022年7月より、「和痛（無痛）分娩」も導入いたしました。和痛分娩では、分娩時の痛みを大きく緩和できることと産後の回復を促せることが利点で、よりスムーズな社会復帰にもつながります。

当院では、麻酔科専門医、新生児科医、産科医、助産師がしっかりとチームを組んだ万全な医療体制のもとで和痛分娩を受けられますので、大変おすすめです。和痛分娩のメリット・デメリットなどを事前に十分理解できるように、「和痛分娩麻酔外来」も開設しています。当院での和痛分娩をご希望される方、内容を詳しく知りたい方は、いつでも気軽に相談ください。

当院では、引き続き、地域のすべての妊婦さんが安心、安全に分娩で



きるような周産期医療体制を整えてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

和痛分娩

～当院で和痛分娩を開始しました～

単胎（赤ちゃん一人）
経陰分娩予定の方を対象に和痛分娩を開始します。
経陰分娩に不安がある方もあります。いくつか条件があります。

希望される方は
外来担当医にお伝え下さい。



帝京大学医学部附属病院 産婦人科 主任教授
長阪 一憲 （ながさか かずのり）

2000年 愛媛大学医学部医学科 卒業
2008年 東京大学大学院医学系研究科 卒業
2008年 国際遺伝子工学バイオテクノロジーセンター（イタリア トリエステ）招聘研究員
2011年 関東労災病院産婦人科 医長
2012年 東京大学医学部附属病院 女性診療科産科
2017年 帝京大学医学部産婦人科学講座 講師
2020年 帝京大学医学部産婦人科学講座 准教授
2021年 帝京大学医学部産婦人科学講座 主任教授

【専門分野】
産婦人科学
内視鏡下手術（腹腔鏡・子宮鏡）
婦人科腫瘍
臨床遺伝学

【一般市民対象】

第11回 日本大学医学部附属板橋病院・帝京大学医学部附属病院 地域がん診療連携拠点病院

オンデマンド
動画配信

合同市民公開フォーラム

もっと知ろう!

がんの正しい知識

消化器がん治療

開催日程

2023年3月1日(水)→31日(金)

掲載場所

日本大学医学部附属板橋病院および
帝京大学医学部附属病院ホームページ

両病院のホームページにアクセスしていただくか、
それぞれの二次元コードを読み取ってご視聴いただけます。

日本大学医学部附属板橋病院

検索

または

帝京大学医学部附属病院

検索

お問合せ

日本大学医学部附属板橋病院 がん相談支援センター

☎03-3972-8111(代表) 内線3169 (平日9:00~16:00)

帝京大学医学部附属病院 医療連携室

☎03-3964-9830(ダイヤルイン) (平日9:00~17:00)

ごあいさつ

日本大学医学部附属板橋病院 病院長 高橋 悟
帝京大学医学部附属病院 病院長 坂本 哲也
板橋区保健所 所長 鈴木 眞美
板橋区医師会 会長 齋藤 英治

講演 1

演題：膵臓がんの診断と治療
～難治がんの克服を目指して～

演者：日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野
主任教授 木暮 宏史

講演 2

演題：大腸がんの最前線
Part.2 ～予防・診断・治療～

演者：帝京大学医学部外科学講座
教授 橋口 陽二郎

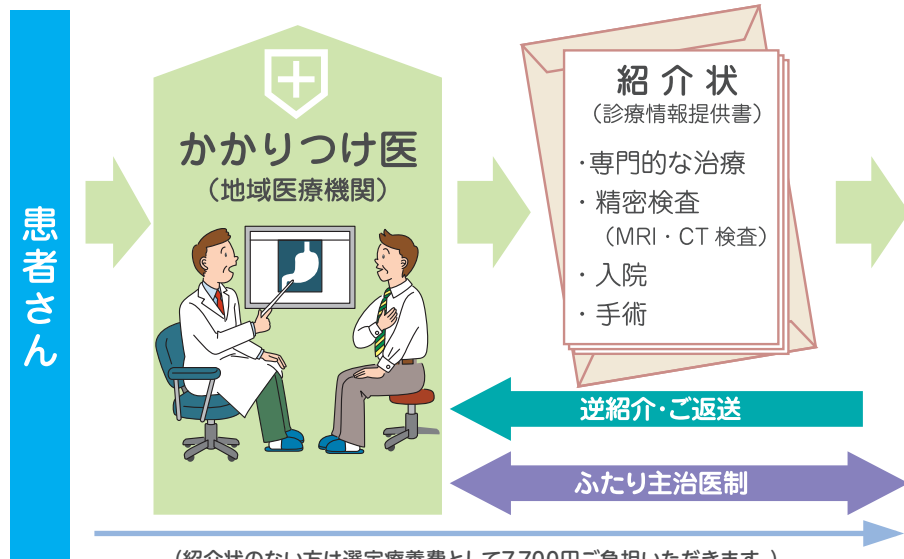
共催：日本大学医学部附属板橋病院, 帝京大学医学部附属病院, 板橋区, 板橋区医師会

後援：東京都, 東京都北区医師会, 豊島区医師会, 練馬区医師会

帝京大学病院では紹介状があれば初診でも予約*ができます。

※事前にお電話下さい

医療連携の流れ



(紹介状のない方は選定療養費として7,700円ご負担いただきます。)

帝京大学医学部附属病院
予約専用(医療連携室)

03-3964-1498

予約受付
時間 平日 8:30~17:00
土曜日 8:30~12:30

初診受付

診療受付
時間 平日 (予約あり)
8:30~14:30
(予約なし)
8:30~11:30
13:00~14:30
土曜日 8:30~11:30

紹介状をお持ちの患者さん

- ① 予約電話(03-3964-1498)までお電話ください。
電話予約の際にご確認させていただく項目
(お名前、生年月日、性別、住所、電話番号など)
- ② 予約完了
- ③ 当日は15分前までに初診受付までお越しください。

紹介状をお持ちでない患者さん

- ◎初診受付 【診療受付時間】
- 平日 8:30~11:30/13:00~14:30
土曜日 8:30~11:30
- 直接初診受付へお越しください。
- ※当日の診察状況によっては受診できない場合もございます。



上の地図は略図のため、実際の地形とは異なりますのでご注意ください。

- 1 JR埼京線 十条駅
 - 北口より徒歩約10分
 - 北口ロータリータクシー乗り場より約6分
- 2 都営三田線 板橋本町駅
 - A1出口より徒歩約13分
 - A1出口より約6分
- 3 JR埼京線 板橋駅
 - 西口①番のりばより
 帝京大学病院経由、王子駅行き 乗522 (約8分)
 「帝京大学病院」バス停下車
 西口より約9分
- 4 JR各線 赤羽駅
 - 東口⑤番のりばより
 高円寺駅北口行き 乗311 (約11分)
 「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
 - 西口⑥番のりばより王子駅行き 乗501 (約14分)
 「上十条四丁目」バス停下車徒歩約5分
 西口より約12分
- 5 JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅
 - 北口⑥番のりばより
 帝京大学病院経由、板橋駅行き 乗522 (約12分)
 「帝京大学病院」バス停下車
 北口より約9分
- 6 JR各線・東京メトロ各線 池袋駅
 - 西口より約16分
- 7 東武東上線 上板橋駅
 - 北口①番のりばより王子駅行き 乗54 (約13分)
 「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
- 8 東武東上線 ときわ台駅
 - 北口①番のりばより王子駅行き 乗54 (約9分)
 「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
 北口より約12分

帝京大学医師会からのお知らせ

【産業医研修会について】

帝京大学医師会では、日本医師会認定産業医のための産業医研修会を毎年開催しております。帝京大学医学部附属病院で研修を受けながら、認定に必要な50単位を1年間で全て取得することが容易となりますので、是非ご参加ください。開催日程等の詳細は帝京大学医師会ホームページをご覧ください。

帝京大学医師会ホームページ

URL <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/ishikai/workshop/>

▼詳細はこちら



※所要時間は日中平常時、最短時間の目安となっておりますので、時間帯や道路状況により異なります。

タクシーをご利用の場合 ①バスをご利用の場合 ②徒歩の場合